令和元年度 第3回 八尾市入札等監視委員会議事録	
開催日時	令和2年3月25日(水) 午後1時55分から3時00分
開催場所	八尾市役所 本館4階 入札室
出席委員	3名(全員出席)
事務局	総務部：小田部長、契約検査課：北尾課長、小西課長補佐、多田課長補佐、 鵜飼係長
議 題	<p>I. 抽出工事の審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発注案件名称：令和元年度南高安排水区第19工区下水道工事 入札方式：条件付一般競争入札 開札日：令和元年12月10日 受注者：不動産テトラ・田中浚渫工業特定建設工事共同企業体 契約金額：992,433,200円 ・発注案件名称：令和元年度恩智川東排水区第3工区下水道工事 入札方式：条件付一般競争入札 開札日：令和元年12月10日 受注者：株式会社ヤマトプロジェクト 契約金額：53,597,500円 ・発注案件名称：令和元年度南高安排水区第24工区下水道工事 入札方式：条件付一般競争入札 開札日：令和元年12月10日 受注者：株式会社ダイヨー 契約金額：42,270,800円 <p>II. 発注工事の入札・契約手続きの運用状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度入札・契約実績 2. 令和2年度建設工事等の入札・契約方針について 3. 平均落札率一覧表(平成27年度～令和元年度)他 4. 令和元年度入札参加停止状況 5. 平成27年度～令和元年度談合情報 6. 令和元年度入札中止・契約解除案件等について <p>III. その他</p>
委員会による意見の 具申又は勧告の内容	なし

委員からの主な意見・質問、それらに対する回答等

【 I. 抽出工事の審議 】

- (委員) 1件目はJV限定だが、市内には条件に適合する業者がないということか。
- (事務局) 市内には大きな業者がないので、3億5000万円以上の工事はJVのみとしている。
- (委員) 代表業者は2つの業者名の前の方か。また、それは市外業者なのか？
- (事務局) そうです。市外業者で経審の点数が一定以上で、市外には対象業者が80社ある。その業者が市内業者と組んでもらうことになる。
- (委員) 1件落札したら、その次の入札からは抜けていくことになるのか。また、自動的に抜けるのか。
- (事務局) 八尾市では同日の重複落札禁止としており、システム上無効になる。

【 II. 発注工事の入札・契約手続の運用状況 】

1. 令和元年度入札・契約実績

- (委員) 入札方式として、ミニ入札とはどんなものか。
- (事務局) 八尾市独自の名称で、契約検査課が行う200万円以上の入札ではなく、130万円以上200万円未満の、工事担当課が5者を指名して行う指名競争入札のことである。
- (委員) それ以外は全て電子入札で行っており、200万円未満は便宜上、紙入札で行っている。
- (事務局) 業務については最低制限価格の設定が旧モデルを使っていたために60%から70%に上がったが、最新モデルではもう少し上がる見込み。品確法で国の通達があり、予算の関係もあり段階的に2年に渡って変えていく予定をしている。今回はその1年目で、委託業務は60%から70%に上がった。
- (委員) 次の段階としては、どうなるのか。
- (事務局) 今の試算では78%くらいになる見込みで、一方工事は2~3%上がる見込みである。そこが上限になるので、入札で出てくる数字が適正なものと考えている。
- (委員) 業務も工事もほとんどが最低制限価格の入札になっているが、最低制限価格を見直すことにより落札率が高くなっている。これは国の品確法の方針が出て、見直しされたからなのか。
- (事務局) その通り。
- (委員) 随意契約は発注者には便利なもので、契約がスムーズに行えるように法律上認められている。少額随契や緊急随契など。工事の変更契約は現受注業者の方が安く施工できるなどの理由で認められている。

2. 令和2年度建設工事等の入札・契約方針について

(委員) 1者での入札成立では競争にならないと言われるが、そもそも最低制限価格での入札が多いので、競争以前の問題だと思う。1者成立では落札率が上がることも考えられるが、予定価格は発注者が積算した妥当な金額なので、それ以下であれば問題はないと考えている。むしろ入札が中止になることで公共工事が遅れることの方が問題である。

(委員) 最低制限価格があるから入札額の多寡もなく談合もないということだが、最低制限価格が事前公表でなければ、談合もするだろう。事務局の業務量も少なく済むことになる。

(委員) 受注意欲を持たせるような発注をしないことには応札がない。定型的な下水道の管工事や推進工事であれば問題ないが、小中学校の工事のように工期が限られている場合、また老朽化による改修の場合は、手間はかかるが旨味がないので受注意欲がなくなり、1者しか応札がなかったものだと思う。受注意欲を持ってもらえるような発注方法を考えなければならない。

(委員) じゃんけんや抽選になるのなら1者での入札成立の方が潔い。

(事務局) くじで良いのかという意見はよく聞くし、価格だけで決めるのかとの議論もあるが、この価格でしっかりできるという業者の意思表示があったものと考えて契約を結んでいくので、競争性がある、会社の経営方針にあった価格で手を挙げていただいたことを示していく必要があると考えている。

(委員) 不落が続くと仕様や工期を見直さなければならず、契約事務の負担も増える。手を挙げるか否かは相手の問題で、一定競争性は働いていると考える。健全化となると、いろいろな意見もあるので受注意欲を持ってもらえるような発注方法を考えなければならない。どのタイミングでどの工事を発注するかを担当者も考えていると思うが、さらに創意工夫に努めなければならない。

3. 平均落札率一覧表（平成27年度～令和元年度）他

4. 令和元年度入札参加停止状況

5. 平成27年度～令和元年度談合情報

6. 令和元年度入札中止・契約解除案件等について

(委員) 入札参加停止一覧に「労働安全衛生法違反」とあるが具体的に何をしたのか。

(事務局) 大阪府にも聞いたが、具体的なことは教えてもらえなかったので分からない。

(委員) 談合情報はなしとのことだが、電子入札をする前は談合情報が多数寄せられていたが、真偽が不明であった。その場合は必ず入札に参加した者すべてから事情を聴いて、談合をしていない旨の誓約書を書いてもらうという大変な状況だったが、電子入札制度になってからは、なくなった。八尾市は予定価格と最低制限価格を事前公表しているのだから、職員から聞き取ることもなくなり、談合調整しようもない。談合に対する意欲もなくなる。

入札中止の工事で市営住宅の浴室工事は受注意欲がなかったのだろう。それもまた次年度からは1者入札を認めるとのこと。契約解除は建設工事保証があるので深刻な問題にはならないが、倒産があると下請け業者が市にうるさく言うてくる副次的な問題はあるが、ここ数年は該当なしで推移しているようだ。

【Ⅲ. その他】

(事務局) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた建設工事及び測量・建設コンサルタント等業務の一時中止措置等について国土交通省から通知があった。2月25日付で緊急対策をとるということで、大阪府を通じて指示があり、八尾市もホームページに掲載するとともに請負業者に通知を行った。2つの措置があり、1つ目は拡大防止に向けた建設工事の一時中止措置、2つ目は感染が発覚した場合の連絡と協議で、2つ目の措置は現在はない。1つ目は全業者に確認したが、なかったので特別な措置は取っていない旨、国に報告をした。大阪府内でもないと聞いているが、国レベルでは建設コンサルタントが一定期間休業するので納品が遅れるケースがあったと聞いている。

以上